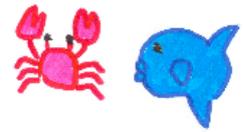


氏名：舟木耕太（福山市立神辺中学校）

現地勤務先：イニヤミッサ中等学校

# カニ マンボ Cani Mambo

モザンビークからの便り



Boa tarde!（こんにちは!）

日本は秋ですね。そちらはこれから冬に向かいますが、こちらは夏に向かっています。この3ヶ月、広島を襲った災害、御嶽山の噴火などのニュースを聞きました。少しでも早い復興を祈りながら、こちらでも活動に励みたいです。



## Xai-Xai での活動開始!

8月から、首都を離れて Xai-Xai という町のイニヤミッサ中等学校（日本の中学校と高等学校程度の内容を扱う学校）で勤務が始まりました。いよいよ現地の学校の先生としてデビューです。

学校には8年生から12年生まで、3800人の生徒が在籍しています。午前と午後、夜間の3部制で、21ある教室は常に授業で利用されているような状況です。そんな場所で、まずは同僚と一緒に、9年生の数学の授業を受け持つことになりました。

留年も多いのが課題のモザンビーク。9年生には、15歳から20歳以上まで、さまざまな年齢の生徒がいます。1クラス70人、教科書は持っていないのが当たり前です。時間を守る感覚も大きく違い、言葉にも苦労する中、日本でできていたことができない、もどかしい日々が続いています。日本との環境の「違い」があるのは当たり前ですが、その違いでも、悪い面ばかりに目がいく状態でスタートした活動。



午後の9年生の授業の様子。教壇に立ってみると、「言葉」の必要性を感じます。もっと喋れるように…

しかし、凸凹だけど黒板はある。1人1つじゃないけどみんな使える机と椅子がある。停電もあるけど電気がある。ちゃんと教室がある。無い、無いと思っていたら、あるものに目が向けられなくなります。

「違い」があるから苦労もするけど、「違い」があるから工夫もできる。「違い」があるから困難にぶつかるけど、「違い」があるから相手を分かろうと努力できる。大変なことも含めて、この地で活動できることを楽しめるようになったら素敵だなと思います。貴重な経験をさせてもらっていることに感謝です。

そこで、最近は授業中に使う道具の作成を始めました。少ない時間を活用するために、少ない黒板のスペースを有効利用するために、そして、少しでも理解を助けるために。さて、明日の授業はうまくいけようか？



なるべく安く、どこでも手に入る材料で、できれば捨てるものを再利用して道具を作ろうと思います。

## アフリカの大地に来たのだという実感

首都を離れると、アフリカに来たのだと感じさせる景色を見ることが多くありました。一面に広がる台地、どこまでも続く地面にはこの大陸の広さを感じます。ライオン、シマウマ、ゾウ、キリンといった動物の気配を感じさせる景色を見て、現地の人に思わず聞いてみます。

「動物いないのかな〜」

「家畜しかいないよ…」

「本当にいないのかな〜」

「本当にいないよ…」



ここもアフリカ、地面はつながっているのに…とあきらめきれない思いもしますが、内戦のときに動物はほとんど殺されてしまったとのこと。戦争で被害を受けるのは人だけでなく、自然や動物だって同じです。最近では動物が戻って来られるよう自然公園も整備されてきましたが、密猟を防ぐための制度もまだ行き届いていないようです。この国でこれらの動物に出会うのは簡単では無さそうです。

アフリカと言われると、日本から遠く離れているためか、ひとまとめに考えていましたが、とても大きい大陸です。人類誕生の大地であり、自然も、歴史も、文化も、自分の想像できないくらい大きなアフリカ。そのスケールの大きさに、小さな悩みは、すぐに吹き飛んでしまいそうです。

家に帰る前、丘の上に寄り、景色を眺めながらアフリカの大地に「喝」を入れてもらうこともあります。



こうした景色に癒されます。

## 生活する力をつけるために…

任地での活動開始と同時に、Xai-Xai での一人暮らしが始まりました。活気のある町で、料理をするには困らないほど、たくさんの食材があります。レタスにトマト、ピーマン、玉ねぎなど、日本でもおなじみの食材が手に入ります。

こちらの料理の中で、私がもっとも好きなのは鶏肉の炭火焼。もちろん、スーパーにはパック詰めや冷凍の鶏肉が売られていますが、一番安くて美味しいのは生きた鳥をそのまま購入することです。夕暮れ時、仕事帰りのスーツ姿のおじさんの両手に生きた鳥が…なんて光景もよく目にします。それを家でさばいて、新鮮なうちにいただく。

私にとっては、鳥をさばくのは大きな勇気が必要ですが、いつかチャレンジしたいです。そこでまず、近所で鳥のさばき方を見学してみました。命を目の前で奪う。それをいただく。日本で売られている鶏肉も、もとは誰かがさばいて準備してくれたもの。こちらで生活してみると、日本では便利さに助けられていたと実感します。次回は自分で…頑張るぞ！

まずは食べることから、生活力をつけたいと思います！

